

平成29年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は平成29年秋期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

今期の全体取引量は約10.7万本で、前年同期（約12.5万本）より約1.8万本減少しました。

一般植木は対前年同期比85.3%、株・玉物は85.2%、生垣用樹は86.1%とすべての区分で減少し、全体では85.4%となりました。

全体取引量は、21年以降続いていた減少傾向が前年は増加に転じましたが、今期は再び大きな減少となりました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約1.7万本で、前年同期（約2.0万本）より約0.3万本減少しました。

自然形では、大きく増加したカシ類を除くすべての調査品目で減少し、カエデ類、キンモクセイの減少に加えて、ツバキが著しく減少して全体量を押し下げました。

仕立物では、イヌツゲはわずかに増加しましたが、イヌマキは大きな減少傾向が続いています。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約5.9万本で、前年同期（約7.0万本）より約1.0万本減少しました。

サツキ・ツツジ類は安定した取引が続いていますが、イヌツゲが大きく減少して全体量を押し下げました。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約3.1万本で、前年同期（約3.6万本）より約0.5万本減少しました。

生垣用樹はサザンカとイヌマキが大半を占めますが、サザンカは減少傾向が続き、イヌマキも今期は大きく減少しました。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）しました。

追加樹種を含めた取引量上位10品目では、上位3品目の順位に変化はありませんでしたが、大きく減少したイヌツゲ（株・玉物）、イヌマキ（生垣）が順位を下げ、ツツジ類とシマトネリコが順位を上げました。新たに上位10品目に加わったり、外れたりした品目はありませんでした。

調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

福地植木生産組合（西尾市斉藤町）

図-1 秋期取引量の推移（単位：万本）

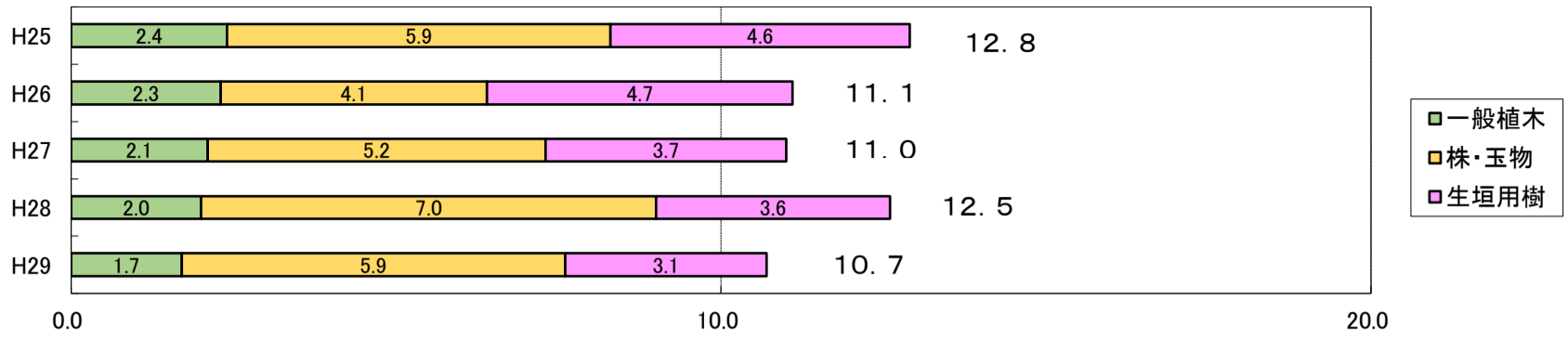


図-2 秋期取引量の区分別構成比（%）

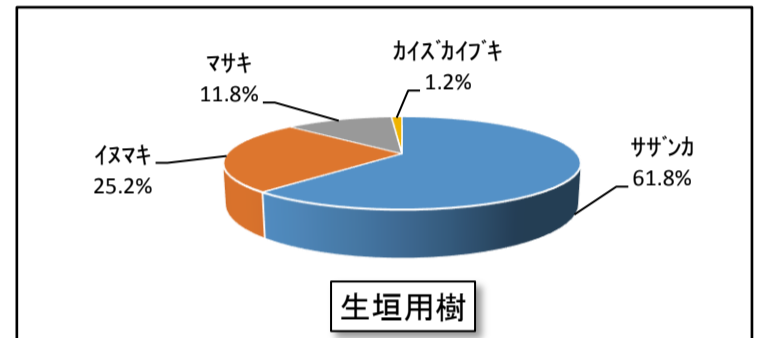
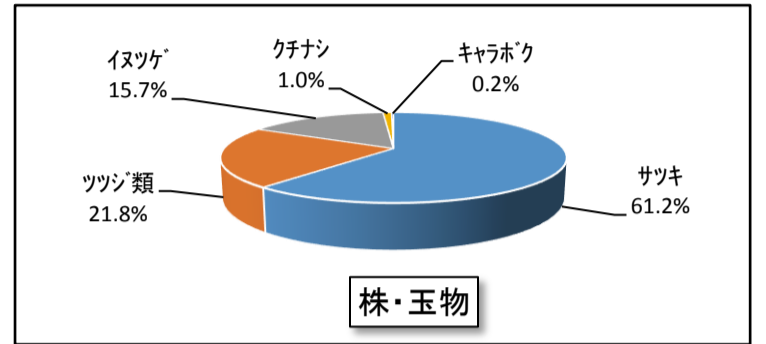
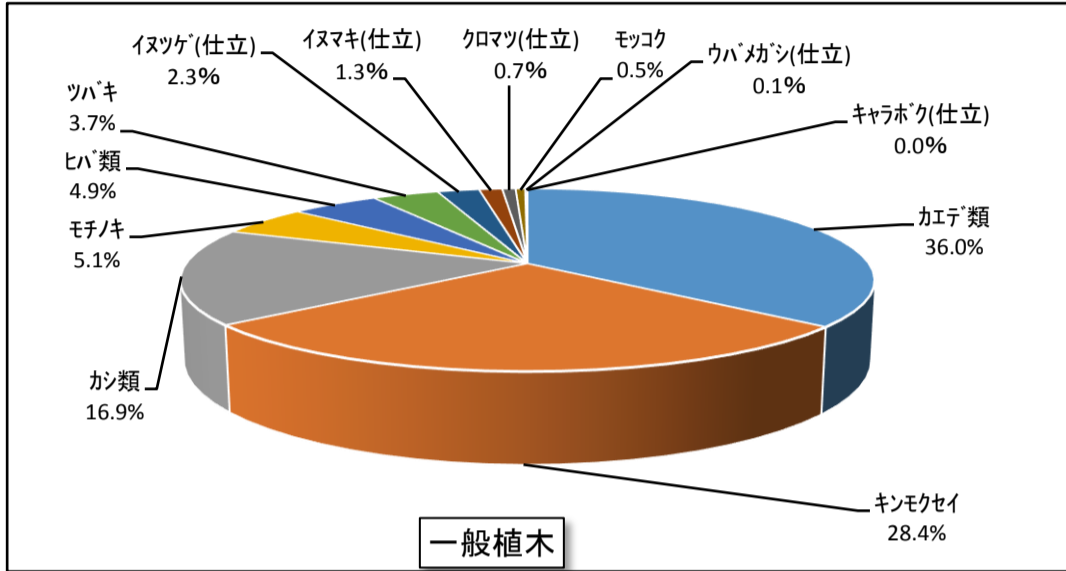


図-3 秋期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）

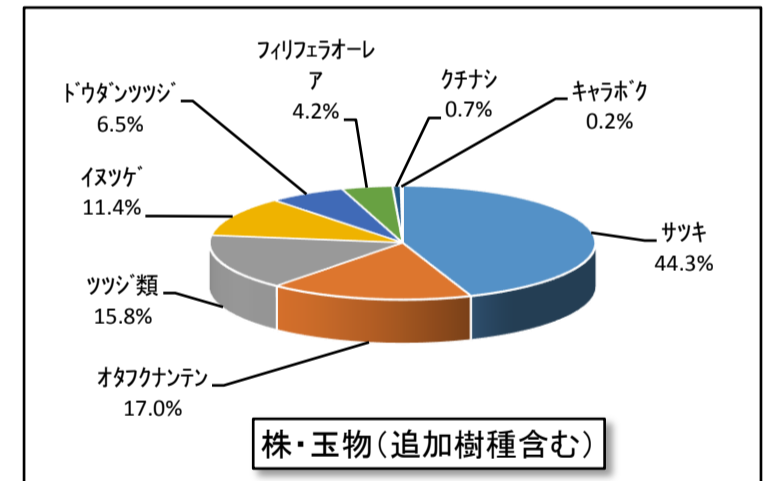
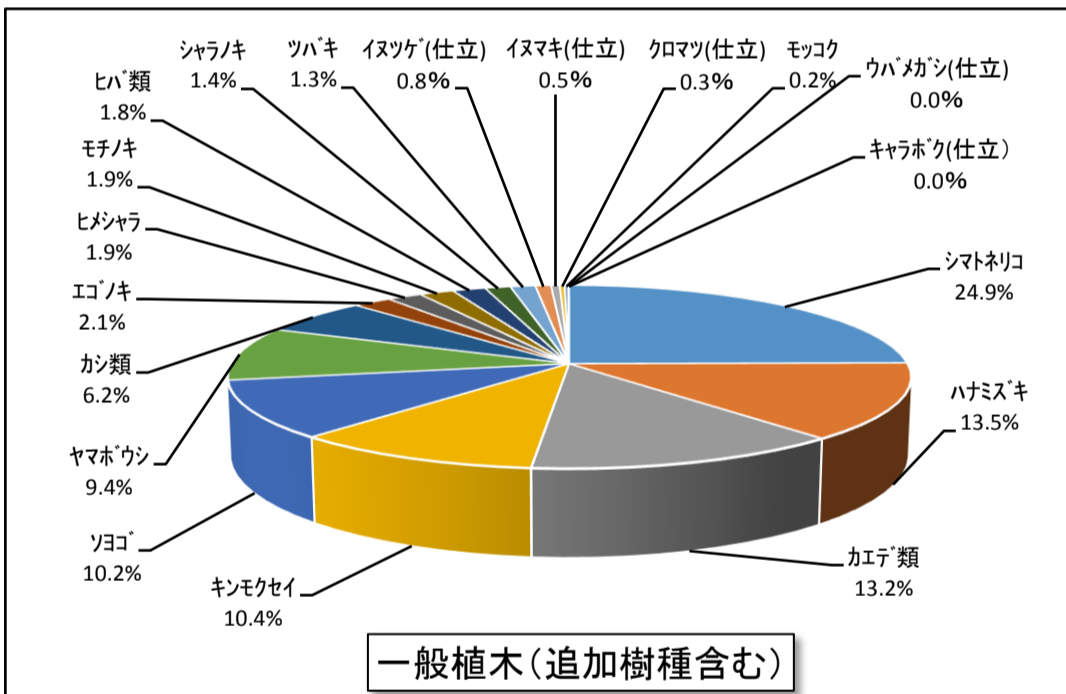


表-1 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成27年			平成28年			平成29年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	↗	サツキ	株	↑	サツキ	株	...
2	サザンカ	生	↘	サザンカ	生	...	サザンカ	生	...
3	イヌツゲ	株	...	オタフクナンテン	株	↑	オタフクナンテン	株	↘
4	ツツジ類	株	↑	イヌツゲ	株	...	ツツジ類	株	...
5	イヌマキ	生	...	ツツジ類	株	...	シマトネリコ	—	...
6	オタフクナンテン	株	↑	イヌマキ	生	...	イヌツゲ	株	↓
7	シマトネリコ	—	...	シマトネリコ	—	...	イヌマキ	生	↘
8	ヤマボウシ	—	↑	ハナミズキ	—	↑	ハナミズキ	—	↘
9	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	↗	カエデ類	—	...
10	カエデ類	—	...	ドウダンツツジ	株	↗	ドウダンツツジ	株	↘

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗: +20%以上40%未満 ↘: -20%以上40%未満
 ↑: +40%以上 ↓: -40%以上 —: データなし
 ・区分 —: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹